

■令和6年度小中一貫教育推進研究計画書

1 小中一貫教育の取組について

第2期小中一貫教育の取組 の教職員への浸透について 令和6年4月現在	・浸透している	・概ね浸透している	・浸透していない
	課題 「練り上げ」「振り返り」の取り組み方について学校間での共通理解が不足している。		

※計画書の見方

○「進捗状況について」………A:検討中 B:着手済み C:令和5年度から継続 D:令和6年度になって見直し

○「具体的な内容」について…【P】Plan(計画) 【D】Do(具体的方策)

【C】Check(チェックの方策、チェックを行った結果) 【A】Action(今後の取組)

(1) 目指す児童生徒像について

N O	取組内容	進捗状況	具体的な内容
1	児童生徒像の設定 共通する目指す	A B C D	ブロックの共通する児童生徒像 研究主題 「小中9年間の学びをつないだ自分の『よさ』を自覚する児童生徒の育成」を受け、目指す児童生徒像を「学力が高まること・自己肯定感が高まること・学校生活が充実することで自分の『よさ』を自覚する児童生徒」とした。 <具体の児童生徒像> ・自分の「よさ」がわかり、目標の達成を目指して主体的に学びに向かい、基礎的・基本的な知識や技能を活用して課題を解決できる児童生徒 ・自分の「よさ」がわかり、安心して生活できる児童生徒 ・自分の「よさ」がわかり、学校や集団のためによさを発揮しようとする児童生徒 学校独自の児童生徒像 「夢に向かって、進んで学び、心やさしく行動できる児童」 み…みずから学び、考える子 や…やさしい心で行動できる子 も…もつ力を出しきれる子 と…ともだちと協力し合える子

2	身につけさせたい 資質能力	<u>ブロックでつけさせたい資質・能力</u> ○「児童生徒につけたい力」の設定 A学力向上 ①基礎的・基本的な知識や技能 ②思考力・判断力・表現力 ③学びに向かう力(学習意欲)・人間性 B自己肯定感の高揚 ①ありのままの自分を受け入れる心 ②自分を大切にし、相手を思いやる心 ③集団の質の向上に向けてよさを発揮しようとする心 C学校生活充実感の高揚 ①自校の「よさ」を理解し、自信を持って「自校が好きだ」と言える態度 ②自分の言動・行動で自校の校風を高めようとする態度 ③西中学校区の児童生徒であることを誇りに思える態度 ○「教師に求められる力」の設定 A「主体的・対話的で深い学び」を実現し、児童生徒に確かな学力を身付けさせられる授業力 B生徒の「よさ」を見つける眼力と「よさ」を発揮させられる指導力 C西中学校区に誇りがもてるように児童生徒を導く力 ★目指す児童生徒像を達成し、つけたい力をつけるために、研究の方針を定め、組織を機能させて研究主題に迫る。 <u>学校でつけさせたい資質・能力</u> 各教科の授業において、本校の課題である「思考力・判断力・表現力」「自己肯定感の高揚」について、年間をととして意図的・計画的に内容項目に取り組む。
3	合同研修組織の設置	<u>合同研修組織部会名等</u> <合同研修組織部会名と研究内容> ○学力向上推進部会 ・教科等横断的な授業づくりの研究 ・カリキュラムマネジメントの視点を生かした教科経営の研究 ・「主体的・対話的で深い学び」の実現 ○学校生活推進部会 ・教育相談を軸とした不登校児童生徒対策 ・生徒指導の共有化(ハンドブック、スタンダード) A ○教育課程連携部会 ・児童生徒の交流活動(憧れの中学生) B ・教員の交流 ・作品交流 C <u>学校独自の部会名等</u> <校内研修組織部会名と研究内容> D ○学力向上推進部 (1)授業改善チーム…主体的に学ぶ児童の育成のための取組推進 等 (2)ICT 活用チーム…主体的に学ぶ児童の育成のための ICT 活用の研究、研修の提案 等 ○学校生活推進部 (1)教育相談チーム…教育相談、生徒指導の情報共有 等 (2)生活指導・学級経営チーム…自己肯定感を高揚させるための個別の配慮を要する児童への指導、学級指導の推進 等 ○教育課程連携部 (1)交流チーム…3校児童生徒の交流活動の推進 (2)分析チーム…各種学力調査の結果の分析、まとめ 等

(2)小中一貫教育7つの取組

N O	取組 内容	進捗 状況	具体的な内容
4	学習過程の工夫と学習形態の工夫 (授業における8つのポイントの活用)		ブロックでの共通内容・取組内容など ○8つのポイントを意識した授業の実践 ★めあてやねらいを明確に示す ★交流、対話的な学習への取組 ★正対した振り返りを行う 学校独自の内容・取組 【昨年度を踏まえた今年度の課題】 練り上げ・まとめに難しさを感じている教員が多い。特に、特別支援学級での練り上げ・まとめの実施に困難さがみられるため、一人一人の実態に応じた話し合いや学習のまとめができるよう指導していく。 【P】 (1)「授業における8つのポイント」をどの授業でも行うことができるよう、重点項目を定め、主体的・対話的で深い学びによる授業改善を行う。【関連No.5】 (2) 4年間をかけて全教科の研修を積み重ね、教科等横断的な学びの視点での授業改善を行う。 【D】 (1)-①練り上げ・まとめに焦点をあてた算数主任、理科主任によるオリエンテーション授業を 5 月第2週までに実施。 ※本年度の重点項目 ア 練り上げ(教員アンケート⑤) イ まとめ(教員アンケート⑥) A (1)-②授業改善チームで授業発問集を活用して課題・めあての提示からまとめ・振り返りまでのプロセスを確認し、指導と評価の一体化を図れるようチェックシートを作成し授業を実施する。 ア 「授業における8つのポイント」の実践(通年) イ 教頭・研修主任が、1学期末の教員アンケートで③④に課題を感じている教員と、2学期以降、毎月カンファレンスを行う。 B (1)-③練り上げ・まとめに焦点をあてた研究授業を算数科、理科等の令和6、7年度研究する教科(No.4(2)-①に記載)で実施する。 C (2)-①令和6、7年度「算数」「理科」「生活」「音楽」「家庭科」「体育」「外国語」「特別活動」「特別支援教育」を研究する。 (2)-②学力向上研修部で作成した「はてなトーク」「振り返りのみ・や・も・と」を発達段階や児童の特性に応じながら全教科で活用し、教科を越えた気づきのある児童を、担任が称賛していく。【関連No.12】 D (2)-③年度当初に指導者を招き、練り上げ・まとめの指導(特別支援的な視点も入れて)をいただき、授業改善を推進していく。 【C】 (1) 教員が「授業における8つのポイント」を意識した授業ができているかを管理職が教室訪問時に確認する。結果については即日教員に伝え、指導・助言を行う。 (2) 教頭が毎学期末に「授業改善振り返りシート」の集計結果を全教員に周知し、改善の進捗状況について確認する。【関連No.12】 (3)各アンケート、学校評価、各種学力テスト … 分析チームを中心とした全教職員による各種学力調査の分析結果や、教頭の授業改善振り返りシートの結果取りまとめをもとに成果・課題を確認する。 【関連No.12】

5	板書計画の習慣化とノート指導の統一化	ブロックでの共通内容・取組内容など ○学習の流れがわかる板書と板書の基本を意識した実践 ○自分の考える過程が見えるノート指導
		学校独自の内容・取組 【昨年度を踏まえた今年度の課題】 <u>自分の考えを書くことができる支援を充実させていく。【関連No.4】</u> 【P】 (1)教師が研修で作成した「板書スタンダード」を活用し、引き続き構造的な板書を実践するとともに児童が自分の考えを書き込むことができるよう教師の指導力を向上させる。 話し合いの場面で先生が黒板に書き足した内容が書かれている。 →先生方の日々の指導と昨年度からの取組で「課題」と「まとめ」については、ほとんどの児童が書けるようになった。 →同か、自分の考え」を書ける児童が増えてきている。 先生の板書に書き足した内容は 複数の児童の意見を「繰り上げ時」に比較・具体化・抽象化する際の「教師の書き込み」をノートにも書かせることで、 ①児童に繰り上げの視点を理解させる ②学習内容を児童自身が振り返ることができるようにすることができるとしています。 児童にまかせっきり <板書のポイントについて、まとめた資料> 児童のノートの記述例 繰り上げ時に教師が黒板に書き込んだ丸や矢印、言葉を書きと写している。 本時のまとめにつながるキーワードは、目立つように板書し、必ず書き込むよう指導する。 教師が板書をする際に、書き込みを意識して行を空けておく等の工夫をすると児童がノートに書き写しやすくなり、ノートづくりの力を身に付けさせることにつながる。 <児童のノートから読み取る板書の工夫資料> A 【D】 B (1)-①【関連No.4】の【D】(1)-① (1)-②ロイロノートを活用し、自分の考えをもてた児童を視える化する。 (1)-③授業改善チームによる、「宮本小ノート名人」の取組を行い、<u>自分の考えを書き込むことができる児童の育成を進める。よいノートは廊下に掲示し、他の児童が参考にできるようにする。</u> 【関連No.13】 C D (1)-④昨年度作成の各教科「授業スタンダード」を周知、実践する。また、生活科、総合的な学習の時間、特別の教科道徳の授業スタンダードを作成する。【関連No.4】 (1)-⑤ICT 活用チームを中心として、ロイロノート活用のための研修を、異動してきた教員や希望者を対象に1学期中に実施する。 【C】 (1) 授業改善振り返りシートの関連項目から達成度を確認する。【関連No.12】 (2) 各アンケート、学校評価、各種学力テスト…分析チームを中心とした各種学力調査の分析、授業改善振り返りシート③⑥について教頭による取りまとめ、授業改善・学校生活アンケート(2)について、生徒指導主任による取りまとめ 【関連No.12】

6

生活規律の共有化

ブロックでの共通内容・取組内容など

- 各小学校作成の生徒指導スタンダードと中学校生活ガイドブックの共有化
- スローガンを意識したあいさつの実践

学校独自の内容・取組

【昨年度を踏まえた今年度の課題】

教職員の目的を明確にした指導や、価値を共有した指導に対する意識を高めていく。

生徒指導スタンダードを守らせることが目的となっている学級が見受けられた。生徒指導スタンダードの各項目のねらいや意図について共通理解を図り指導の意識を高める。

【P】

- (1)学級経営、生徒指導にカンファレンス会議を取り入れ、校長・教頭・教務と打ち合わせと連動させた学校経営を実施する。
- (2)西中学校区生徒指導スタンダードをもとに、家庭との連携を強化する。

【D】

- (1)-①毎週の校長・教頭・教務の打ち合わせにおいて、児童・教員について情報を共有し、小さな荒れを見逃さず、カンファレンスを行う。
- (1)-②教員一人一人に生徒指導スタンダードを意識させ、共通行動をとれるようにする。

ア 生徒指導推進委員会で毎月にテーマを決め、共通行動を確認する。

イ 管理職も生徒指導推進委員会に参加し、協議内容を確認する。

ウ 特別支援教育部から、多様な子への配慮について生徒指導委員会・教育相談部に情報発信をしていく。(毎月の生徒指導推進委員会にて)

- (2)PTA および学校医との連携により、子供の健康・保健指導に関わる活動や情報提供を行い、保護者への啓発をしていく。

- (3)教職員全体の指導における意図や目的意識の明確化に向けて、生徒指導・学級経営チームによる、学級経営や学級指導推進に向けた研修会を実施する。

【C】

- (1)-①児童の生活の様子や生徒指導推進委員会で担任が生徒指導スタンダードの重点項目が身についているか確認を行う。

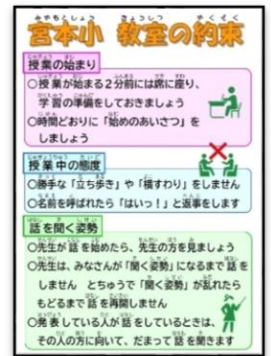
- (1)-②児童・教職員の授業改善・学校生活アンケート(2学期実施)において、教頭、教務が結果を分析する。

- (2)児童対象の生活アンケートを実施し、各学年で分析を行い、学校推進部会で共有を図る。(年3回)

- (3)学校評価 … 教職員学校評価の結果を教頭が取りまとめ、関連項目結果の分析をする。

＜生徒指導スタンダード抜粋「生活のきまり」＞

7	学習規律の共有化	ブロックでの共通内容・取組内容など ○学習のきまりの共有化 ・声のものさし ・学習のきまり ・聴き方名人 ・座り方 学校独自の内容・取組 【昨年度を踏まえた今年度の課題】 保護者学校評価の「授業のわかりやすさ」に関する項目について、肯定的な回答の割合を高められるようにする。 授業改善学校生活アンケートによると、「あなたの学級は落ち着いて学習できる様子ですか。」という設問において、児童と教員とで認識のずれがあるため、落ち着いた学習環境づくりについて、児童が実感できるものにしていく。 【P】 (1)関連No.6【P】(1)参照 (2)授業改善に合わせて「教室の約束」、「授業スタンダード」、「板書スタンダード」を活用し、児童へのノート指導につなげるとともに、話しや適応の時間を確保することで学力を向上させる。 【D】 (1)-①関連No.6【D】(1)-①参照 (1)-②教育相談チームの活動と連携しながら、市の巡回相談及び、越谷西特別支援学校のセンター機能を活用する。 (2)-①教員が授業スタンダード・板書スタンダードを活用し、児童の学習規律や授業中にすべきことについての指導を繰り返し行い、「振り返り」の時間を確保する。【関連No.4】 (2)-②学校での取組を保護者へ伝え、理解を深めるために、学校からのおたより、学校 HP、懇談会、すぐーるを活用し、評価を得ていく。 【C】 D (1)関連No.6【C】(1)-① (2)児童アンケート(年3回)、学校評価(保護者)(年1回)で目標の達成、授業改善学校生活アンケートの項目(7)「あてはまる」の児童・教員間のギャップを教頭、教務で分析する。 (3)各アンケート、学校評価 … 授業改善・学校生活アンケート(1)(15) 授業改善・学校生活アンケートのギャップ 学校評価＜保護者学校評価＞(2) これらの結果について、教頭・教務で分析を行い、課題について、校内課題研修組織と共有する。
---	----------	--



<教室の約束>

8 （家庭との連携） 家庭学習の統一化		ブロックでの共通内容・取組内容など ○昨年度見直した、3校統一の「家庭学習の手引き」を活用する。 ○小・中間で自主学習ノート进行交流する。 ○「テストへの取組表」を共有化し、家庭学習の習慣化への手立てとする。 学校独自の内容・取組 学校評価(保護者)において、児童の家庭学習への取り組む様子の肯定的な評価を高める。 読書教育の推進に向けた取組を充実させる。 【P】 (1)3校統一の「家庭学習の手引き」及び宮本小版「家庭学習の手引き」をもとに、毎日、家庭学習に取り組むことができる児童を育成する。【関連No.10】 (2)司書教諭や学校司書と連携しながら読書教育を推進し、学校や家庭で進んで本を読もうとする児童を育成する。 【D】 (1)-①中学校の中間・期末テストの期間に合わせて、家庭学習習慣を実施する。 (1)-②家庭学習強化週間で児童が自己評価を行う (1)-③懇談会(4月、6月、11月、2月)および、個人面談(7月末)を活用し、保護者対象に家庭学習についての啓発を行う。 A (2)-①学年ごとに貸出数の目標を設定し、定期的に貸し出し状況を確認・把握しながら学級担任、児童保護者への指導・啓発を行う。 B C 【C】 (1)<6月、11月、2月> 家庭学習チェックシートの保護者記入欄の内容を担当が確認し、家庭での学習について保護者への更なる啓発につなげる。 <1月> 学校評価(保護者)の関連項目で確認する。 <全学年共通の「家庭学習の手引き」> <学年別の「具体的な手引き」> (2)学年ごとの貸出数目標達成を担当が確認する。 (3)各アンケート、学校評価 … No.22 学校評価<保護者学校評価>(3) 貸出数の達成状況 これらの結果について、教頭・教務で分析を行い、課題について、校内課題研修組織と共有する。
--	--	--

(3)学力向上のためのブロックオリジナルの取組

NO	取組内容	進捗状況	具体的な内容 (P D C Aで記入)
9	各種学力調査の分析		<u>ブロックでの共通分析結果等</u> 越谷市検証テスト等の分析結果等を持ち寄って行った小中合同教科会より ○国語…作文活動をととして、表現力を高める。 ○算数・数学…基礎・基本の定着(特に計算)。自分の考えを書かせる指導の徹底 <u>学校の分析結果</u>【関連No.4,5】 ○全教科にわたり、「授業における8つのポイント」を用いた授業改善を行う。 ○練り上げていく過程が板書に残るよう、研修部で「板書スタンダード」を改善していく。 <令和5年度全国学力・学習状況調査> ・国語、算数ともに粘り強く取り組む姿勢が伺える。 <令和5年度埼玉県学力調査> ・学習の得意、不得意に関係なく全体的に学力の伸びが見られた。 ・主体的・対話的で深い学び、学習方略の結果から授業における8つのポイントに基づいた授業改善の成果が表れているといえる。 <令和5年度越谷市検証テストの結果> ・昨年度の課題であった内容に大きな改善が見られた。また、昨年度課題となった学習内容を、今年度の担任が、普段の授業から意識して繰り返し指導したことで、全教科の改善につながった。 令和5年度<国語科の課題と教科等横断的視点に立った解決策> 課題：「言葉の特徴や使い方」では、同音異字の漢字、言葉の意味と使い方、指示語、敬語に課題がある。 ➡ 以下のことを国語科のみならず、各教科で意識して指導を行う。 第1学年及び第2学年：身近なことを表す語句の量を増やす。 主語と述語を意識させて、文章を読ませる。 第3学年及び第4学年：様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やす。 修飾と被修飾との関係、指示語と接続語の役割、段落の役割を意識させて、文章を読ませる。 第5学年及び第6学年：思考に関わる語句の量を増やす。 語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴を意識させて、文章を読ませる。 課題：「情報の扱い方、我が国の言語文化」では、国語辞典や漢字辞典の活用、漢字の筆順や部首、ことわざの意味と使い方に課題がある。 ➡ 目的や必要性を感じられる課題を設定し、国語科の知識を使って、自分自身で思考・判断し、表現して課題を解決することで、「情報の扱い方」を生きた力として身につけさせる。 令和5年度<算数科の課題と教科等横断的視点に立った解決策> 課題：領域として「図形」「データの活用」に課題がある学年がある ➡ 社会科や総合的な学習の時間を中心に、課題解決のために、記号や簡単な図で表す活動を取り入れる。グラフや資料を読み取り、文章にする活動を充実させる。 課題：小数や分数の理解に課題がある。 ➡ 各教科で意図的に、これまでの学びの復習する時間を意図的に設ける。

10	系統図の活用	<u>ブロックでの共通内容・取組内容など</u> ○ブロック内で小中の系統図を活用した授業計画や授業の展開を工夫する。 <u>学校独自の内容・取組</u> 【昨年度を踏まえた今年度の課題】 全国学力・学習状況調査、埼玉県学力・学習状況調査、越谷市検証テストの結果【関連No.9】 【P】 ・校内研修(学年・全体会)で、各種学力調査において課題が見られる。箇所の原因を考察・検討する。改善策については、系統図をもとに単元前のレディネステストを実施し、習熟が不十分な内容については、丁寧に復習を行う。 【D】 ①達成率の低い項目の指導の対応策を 4 月末までに学年で策定する。繰り返しが必要な項目は、家庭学習やAIドリル等を活用して習熟を図る。 ②結果の分析から学習方略として、学年で、4 月末までに「学習方法、手順、学習のプロセス」を明確にした授業計画を作成することにより思考が深まる授業の展開し、苦手意識のある児童のボトムアップを図る。 ③AIドリルの校内研修会を実施し、紙のドリルと AI ドリルを効果的に併用しながら学習内容を定着させる。 ④年間指導計画、単元計画の中に、復習する時間を意図的に設ける。 【C】 ・全国学力・学習状況調査、埼玉県学力・学習状況調査、越谷市検証テストの結果を全教員で分析し、分析チームが学校としての成果や課題をまとめる。
----	--------	--

(4)自己肯定感の高揚への取組

NO	取組内容	進捗状況	具体的な内容
12	越谷市授業改善・学校生活に関するアンケートの分析		<u>ブロックでの共通分析結果等</u> ○児童生徒の1割～2割は自分の考えを伝えることができていない。 <u>学校の分析結果</u> 令和5年度児童アンケートの「授業づくり」「心づくり」「学校生活充実感」「規範づくり」「自己肯定感」では、それぞれ高い数値であるが、昨年度より減少傾向である。【関連No.6】 また、「授業づくり」の(2)自分の考えを話す、書く、で数値の向上が見られたが、「規範づくり」「自己肯定感」に課題がみられる。これまでの小中一貫教育合同研修会で話し合った、「よいところを認めるポイント」に沿って全職員が共通行動をとれるようにする。 ①「よいところを認めるポイント」に沿った指導について視点をもちながら管理職による教室訪問を行い、よい指導を行っている教職員の状況を称賛・周知することで意識を高める。【関連No.4, 5】 ②代表委員会を中心に、児童自身が規範を考える機会を設ける。また、児童への指導の際には、なぜいけなかったのかを問う。【関連No.7】 ③児童の疑問や気づき、「解きたい」「学びたい」という思いを大切に授業づくりをする。【関連No.4, 5】
13	自己肯定感を授業の中で高める取組		<u>ブロックでの共通内容・取組内容など</u> ○授業内容がよくわかっていない。まずは「できない、わからない」をなくす。 ○ほめ言葉、算数言葉、教師の声掛け集を3校で活用する。 ○話し合い活動について、各校の取り組みの工夫を情報交換する。 <u>学校独自の内容</u> 【昨年度を踏まえた今年度の課題】 関連No.12 参照 【P】 (1)関連No.4【P】(1)参照 (2)支持的風土のある学級づくりを推進し、発言や発表が苦手な児童の心理的な不安を軽減する。 (3)発言や発表が苦手な児童へは、机間指導やノート提出の際に自己肯定感が高まるような声かけやコメントの記入をする。 【D】 (1)-①関連No.4【D】(1)-①②参照 (2)-①教員がリフレーミングや特別支援教育の手法を取り入れる。【関連No.7】 (2)-②道徳の授業を充実させる。 (3)-①他学級の教員や保護者、地域の方に積極的に公開をする。【関連No.17, 18】 (3)-②校内研究を生かし、「振り返り」を充実させ、自分の成長や学びを実感させる。【関連No.4】 (3)-③研修部が推進する「宮本小ノート名人」の取組を活用する。【関連No.5】 【C】 (1)関連No.4【C】(1)参照 (2)児童の授業改善・学校生活アンケートの自己肯定感に関わる項目の分析を、生徒指導主任を中心に生徒指導・学級経営チームで行う。【関連No.12】 (3)学校評価(保護者)の自己肯定感に関わる設問の分析【関連No.12】 教員授業改善振り返りシートにおいて振り返りの項目の分析【関連No.4】 これらについて、教頭・教務が取りまとめ、保護者と教職員の認識のギャップ等の課題について検討し、生徒指導・学級経営チームと共有していく。

14	自己肯定感を授業以外の場面で高める取組	学校独自の内容・取組 【昨年度を踏まえた今年度の課題】 関連No.12,13 参照 【P】 (1)支持的風土のある地域・学校づくりを推進する。【関連No.13】 (2)自己肯定感の高揚に不可欠な「自己有用感」を高揚させるため、学級内の活動や学校全体の活動、地域全体での活動を充実させる。   <4年生にインタビュー「自分のよさNo.1」> <友達の良いところ見つけたよ> 【D】 <通年> A (1)-①学級での活動や学校全体に係る活動によって、自己肯定感を高められるような取組や掲示を特別活動主任や道徳主任、人権教育主任等を中心に全校で取り組んでいく。 B (1)-②7月、12月、2月にアンケートを取った際に、担任が自己肯定感の低い傾向にある児童と面談をし、児童に寄り添った指導につなげる。 C (2)-①地域の緑化活動や環境保全活動、コミュニティ推進活動との連携【関連No.17, 18】 D (2)-②4月、2月の懇談会において、担任が自己肯定感に関する話を保護者にし、家庭との連携を強める。 (2)-③5月の個人面談と、毎月の教育相談日を活用し、家庭との連携を強める。 【C】 (1)児童アンケートの自己肯定感に関わる項目の分析【関連No.12】 (2)学校評価(保護者)の自己肯定感に関わる設問の分析【関連No.12】 (3)各アンケート、学校評価 … 授業改善・学校生活アンケート(11)(12) 学校評価<保護者学校評価>(5)
----	---------------------	--

(5)学校間の交流

NO	取組内容	進捗状況	具体的な内容
15	(行事・学習・作品など) 児童生徒間の交流		ブロックでの共通内容・取組内容など <行事の交流> ・運動会や体育祭での応援メッセージ交換 ・特別支援学級同士の交流 <学習の交流> ・ノート交流 <作品の交流> ・児童生徒が作った作品(図工の絵画や工作及び書写作品)の画像交流 学校独自の内容 A 【昨年度を踏まえた今年度の課題】 令和5年度学校評価(保護者)における、「学校は、教育目標や教育方針を分かりやすく伝えていきますか。」の項目において、肯定的回答が得られている。 B C 【P】 ・中学生へのあこがれを抱かせ、中1ギャップ解消の一助とする。 D 【D】 ・小中一貫教育研究組織、教育課程連携部で以下の取組を行う。 ①西中体育祭に対する応援メッセージ<5月> ②西中生の家庭学習ノートを校内に掲示する。<7月、10月、1月:> ③図工・美術の作品や書初め作品等の交流を行う。<12月、1月> 【C】 (1)各アンケート、学校評価 … 学校評価(教職員学校評価及び保護者学校評価(10))
16	(合同部会、合同研修、相互授業など) 教師間の交流		ブロックでの共通内容・取組内容など ○3校合同教科等部会を開催し、学力向上について協議を行う。 ○夏季に3校合同研修会を行い、小中一貫教育に係る教育課程や学力向上、学校生活について協議を行う。 ○相互に授業を参観する機会を設けることで、授業改善につなげる。 学校独自の内容・取組 【昨年度を踏まえた今年度の課題】 ○西中学校区での相互授業参観を実施する。 ○柔軟な日程調整を行う。 A B 【P】 (1)計画立てて、合同部会、合同研修を行う。 (2)小中学校教員が相互に授業参観する機会を設け、教員の授業力向上・授業改善につなげる。 C 【D】 (1)主幹・教務主任・研修主任同士が連絡を密にし、少人数でも交流が行えるような計画を立てる。 ア 令和6年度の推進計画の立案を小中一貫教育部長会議で行う。<4, 5月> イ 3校の全教職員で、進捗を確認し、計画の修正を行なう。<夏季休業> ウ 小中一貫教育部長会議、小中一貫教育教科主任会議を行ない、活動をまとめる。<2月> (2)-①研究授業の指導案を西中学校、荻島小学校と共有する。 (2)-②西中学校区の取組「ふらっと訪問」を活用し、教員が中学校の授業を参観する。 (2)-③合同部会、合同研修で授業スタンダードの改善をする。<夏季休業>【関連No.5】 【C】 (1)各アンケート、学校評価 … No.22 学校評価<教職員学校評価>

<西中体育祭応援メッセージ>



(6)保護者・地域連携(人材活用、情報発信など)

NO	取組内容	進捗状況	具体的な内容
17	小中一貫教育についての情報発信	A B C D	ブロックでの共通内容・取組内容など ○小中一貫教育について保護者や地域に理解・協力を得るために情報発信を行う。 学校独自の内容 【昨年度を踏まえた今年度の課題】 学校評価(保護者)によると、昨年度新たに設問した「学校は、地域や学校応援団等と連携した教育活動を展開していますか。」について、発信する情報の質と量の見直しと改善を行う。 ＜小中一貫教育だより＞ 【P】 ・保護者や地域の方に、学校だよりやHP、小中一貫教育だよりを活用し、小中一貫教育の取組や活動の様子を伝えることで、引き続き、その意義や重要性を周知していく。【関連No.13,14】 【D】 ①校務分掌に「情報発信部」を位置づけ、情報発信の仕方と頻度の改善を図る。 ②教頭が、小中一貫教育について周知する文書を発行し、理解・協力を得られるようにする。＜6月、9月、12月＞



(7)ブロックオリジナル

NO	取組内容	進捗状況	具体的な内容
18	PTAの交流	A B C D	ブロックでの共通内容・取組内容など ○行事等における物品等の貸し借り 学校独自の内容 【昨年度を踏まえた今年度の課題】 ○多くの行事が中止となる中で、PTA と学校とがよく連携し、工夫した活動を行えた。今年度もできる範囲で地域との交流や PTA と連携を継続していく。 【P】 ・各種行事を活用しPTAの交流を図る。 【D】 ①地域主体の行事への参加【関連No.13,14】 ア チューリップフェスティバルへの参加＜4月、11月、2月、3月＞ イ 彼岸花の補植＜6月＞ ウ 芝桜の補植＜3月＞ ②学校行事やPTA行事での連携・協力 ア 運動会・体育祭＜10月＞ 【C】①各地域主体行事への参加 ②学校行事や PTA 行事での連携・協力の取組内容の充実